

**DURA Rhythm**  
**OLE カスタムアプリケーション**  
**作成ガイド**

**Windows95/98/Me**  
**WindowsNT4.0/2000/XP対応**

**日東電工株式会社**

**\*重要**

インストール中に表示される使用許諾契約書を必ずお読みください。使用許諾契約書を許諾頂ける場合のみ、本ソフトウェアをご使用ください。

本ソフトウェアを利用して作成されたカスタムアプリケーションソフトウェアが原因となり、購入者及び使用者の被ったいかなる障害、損失、結果に対しても日東電工及び販売店は、その原因の如何にかかわらず何ら責任を負う者ではありません。

本ソフトウェアは、ご利用機器 1 台に対して 1 セットのご購入をお願いいたします。

記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

# 目 次

1 . はじめに	1
2 . 機能	2
2 - 1 機能概要	2
2 - 2 各プロパティ/メソッドの説明	4
2 - 3 プログラムの流れ	26
2 - 4 プログラム例	26
2 - 4 - 1 Visual Basic の場合	26
2 - 4 - 2 Access の場合	27
2 - 4 - 3 Excel の場合	28
2 - 5 補足	30
3 . 追加プロパティ/について	31
3 - 1 Ver3.35 追加プロパティの使用例	31
3 - 2 手貼りモードの使用方法について	33
4 . アプリケーション作成上の注意点	35

## 変更履歴

1. 1996年 12月 17日

新規作成

2. 1997年 10月 6日

1) DURA Rhythm Ver.3.35以降で、以下のプロパティを追加しました。

追加プロパティの使用例を第3章で説明しています。

- ・ **Message** プロパティ
- ・ **Comment** プロパティ
- ・ **LogoFile** プロパティ
- ・ **LogoName** プロパティ
- ・ **Visible** プロパティ

2) アプリケーション作成上の注意点について、第4章で説明しています。

3. 1998年 5月 26日

1) 以下のプロパティを追加しました。

- ・ **BackFeed1** プロパティ
- ・ **BackFeed2** プロパティ

4. 1998年 8月 25日

1) 以下のプロパティを追加しました。

- ・ **BackFeed3** プロパティ
- ・ **Start2** プロパティ

5. 1998年 12月 25日

1) 以下のプロパティを追加しました。

- ・ **Flip** プロパティ
- ・ **CommPort** プロパティ
- ・ **CtrSave** プロパティ

6. 1999年 3月 10日

1) 以下のプロパティを追加しました。

- ・ **TTFontSize** プロパティ
- ・ **TTStringSpC** プロパティ
- ・ **TTStringData** プロパティ
- ・ **LSP5300Info** プロパティ
- ・ **LSP5300FeedReset** プロパティ

7 . 1999年 5月 10日

- 1) 「3 - 2 手貼りモードの使用方法について」を追加

8 . 1999年 8月 10日

- 1) 以下のメソッドを追加しました。
  - ・ **SetFunctionValue** メソッド
  - ・ **GetFunctionValue** メソッド

9 . 2000年 10月 16日

- 1) 以下のプロパティを追加しました。
  - ・ **BathNum** プロパティ
  - ・ **GetInfo** プロパティ

10 . 2001年 7月 20日

- 1) 以下のプロパティを追加しました。
  - ・ **GetPartsInfo** メソッド
  - ・ **GetBarType** メソッド
  - ・ **Position** メソッド
  - ・ **OnlyVariableSend** メソッド

11 . 2003年 3月 18日

- 1) 以下のプロパティを追加しました。
  - ・ **NumberingReset** プロパティ
  - ・ **NumberingMax** プロパティ
  - ・ **Get2DType** メソッド

12 . 2003年 11月 13日

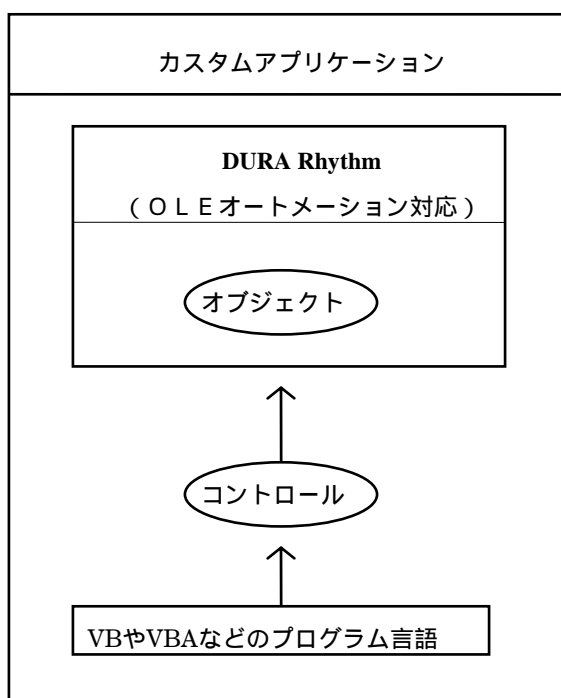
- 1) 以下のプロパティを追加しました。
  - ・ **Num\_StartFig** プロパティ
  - ・ **Num\_Length** プロパティ
  - ・ **Num\_Idential** プロパティ
  - ・ **Num\_Addval** プロパティ

13 . 2005年 6月 15日

- 1) 以下のプロパティを追加しました。
  - ・ **SetTextOnlyDriver** プロパティ

## 1 . はじめに

DURA Rhythm Ver.3.03 以降では、OLE ( Object Linking and Embedding ) オートメーションをサポートしています。本書は、DURA Rhythm を OLE サーバーとして利用し、カスタムアプリケーションを作成するためのプログラマ向けのガイドです。OLE オートメーションを利用することにより、VB ( Visual BASIC ) や ACCESS など VBA ( Visual Basic for Applications ) VBScript(Internet Explorer)をサポートするプログラミング言語を利用してラベル発行のカスタムアプリケーションを作成することができます。



**DURA Rhythm の OLE オートメーション  
を利用したカスタムアプリケーションの作成**

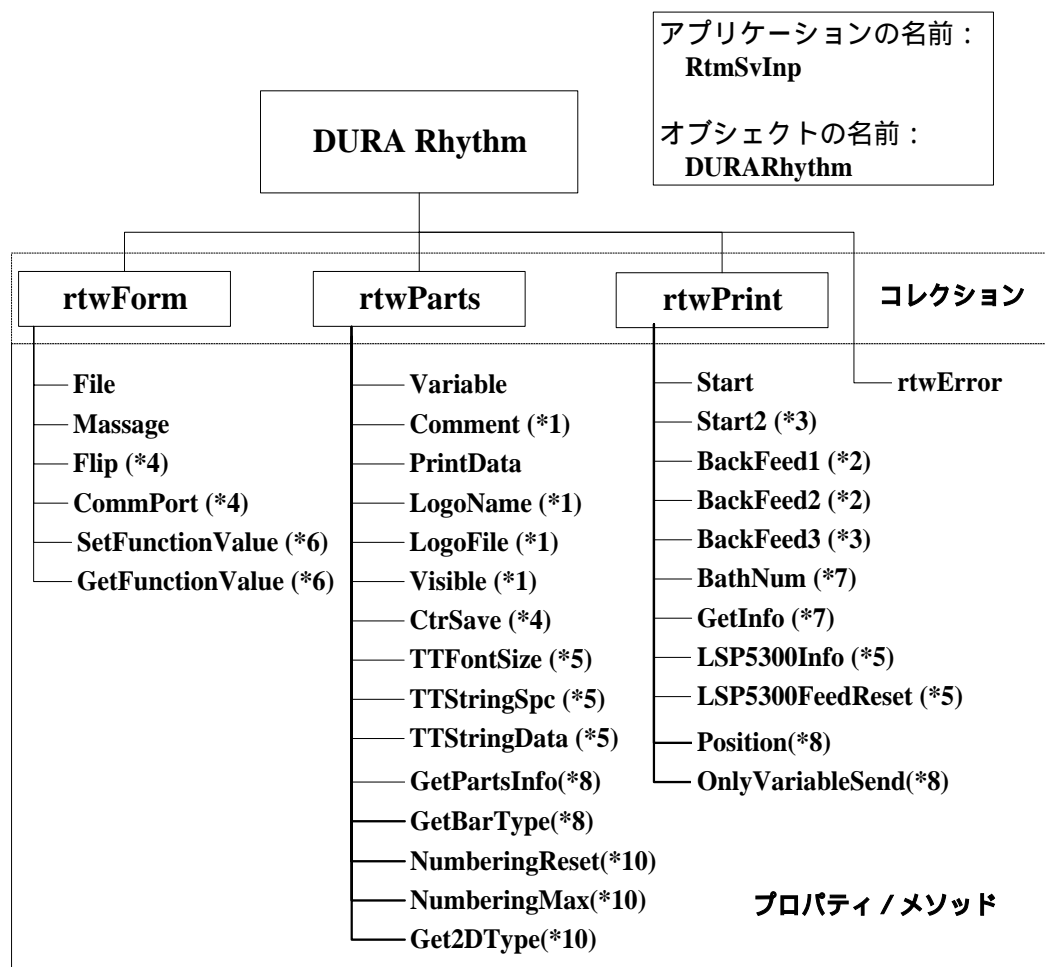
尚、本書では、OLE , VB , VBA , VBScriptのプログラミングについての基礎知識及び、ACCESS等の基本操作をマスターされていることを前提としています。これらの情報については、それぞれの参考書などを参照してください。

## 2 . 機能

### 2 - 1 機能概要

DURA Rhythm でサポートされているオブジェクト / プロパティの階層構造を下記に記します。  
DURA Rhythm をインストールすると OLE サーバーのオブジェクトも同時にインストールされます。VBや VBA のプログラミング言語より下記プロパティを操作することにより、DURA Rhythm で作成されたラベルフォーマットを使ってラベル発行を行うことができます。

OLE サーバープログラム名 : RtmSvInp.DLL



DURA Rhythm の OLE サーバーの階層構造

- (\*1) DURA Rhythm Ver.3.35 以降で追加されたものです。
- (\*2) DURA Rhythm Ver.4.03 以降で追加されたものです。
- (\*3) DURA Rhythm Ver.4.30 以降で追加されたものです。
- (\*4) DURA Rhythm Ver.4.53 以降で追加されたものです。
- (\*5) DURA Rhythm Ver.4.58 以降で追加されたものです。
- (\*6) DURA Rhythm Ver.4.6 以降で追加されたものです。
- (\*7) DURA Rhythm Ver.5.0 以降で追加されたものです。
- (\*8) DURA Rhythm Ver.5.1 以降で追加されたものです。
- (\*9) DURA Rhythm Ver.5.1C 以降で追加されたものです。
- (\*10) DURA Rhythm Ver.5.5B 以降で追加されたものです。

\* DURA Rhythm のバージョンにより、OLE サーバープログラム名，アプリケーションの名前が下記の様に異なります。

#### **OLE サーバープログラム名**

DURA Rhythm Ver.3.0 ~ DURA Rhythm Ver 3.99	.....	RTMSERVER.EXE
DURA Rhythm Ver.4.0 ~ DURA Rhythm Ver 4.01	.....	RTMSVR32.EXE
DURA Rhythm Ver.4.02 ~ .....		RTMSVINP.DLL

#### **アプリケーションの名前**

上記、OLEサーバープログラム名の拡張子を除いた部分



## 2 - 2 各プロパティ/メソッドの説明

各プロパティの意味を下記に記します。

コレクション	プロパティ	意 味
rtwForm	<b>File</b>	<b>DURA Rhythm</b> で作成された、フォーマットファイル名を指定します。
	<b>Message(*1)</b>	各種エラー発生時、 <b>DURA Rhythm</b> でエラーメッセージを表示するか否かを指定します。
	<b>Flip(*4)</b>	ラベルイメージの回転角度を指定します。
	<b>CommPort(*4)</b>	プリンタへの出力ポート番号を指定します。
rtwParts	<b>Variable</b>	<b>DURA Rhythm</b> のフォーマットファイルで登録した変数名を指定し、パーツを選択します。
	<b>Comment(*1)</b>	<b>DURA Rhythm</b> のフォーマットファイルで登録したコメント文字列を指定し、パーツを選択します。
	<b>LogoName(*1)</b>	<b>Comment</b> プロパティで選択したロゴパーツに対するロゴ名を変更できます。
	<b>LogoFile(*1)</b>	<b>Comment</b> プロパティで選択したロゴパーツに対するロゴファイル名を変更できます。
	<b>Visible(*1)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツを印字するか否かを指定できます。
	<b>PrintData</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する印字データを設定 / 参照できます。
	<b>CtrSave(*4)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツの連番データを更新する / しないの設定ができます。
	<b>TTFontSize(*5)</b>	<b>Comment</b> プロパティで選択した TrueType パーツのフォントサイズを変更できます。
	<b>TTStringSpc(*5)</b>	<b>Comment</b> プロパティで選択した TrueType パーツの文字間スペースを変更できます。
	<b>TTStringData(*5)</b>	<b>Comment</b> プロパティで選択した TrueType パーツの印字データを変更できます。
	<b>NumberingReset(*10)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番のリセット値を設定 / 参照できます。
	<b>NumberingMax(*10)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番の最大値を設定 / 参照できます。
	<b>Num_StartFig (*11)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番の開始位置を設定 / 参照できます。
	<b>Num_Length (*11)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番する文字数を設定 / 参照できます。
	<b>Num_Idential (*11)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番の何枚毎を設定 / 参照できます。
	<b>Num_Addval (*11)</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティで選択したパーツに対する連番の変化量を設定 / 参照できます。

<b>rtwPrint</b>	<b>Start</b>	印刷の開始および、印刷枚数の指定を行います。
	<b>Start2(*3)</b>	
	<b>BackFeed1(*2)</b>	マウンタモード時、バックフィードを行います。
	<b>BackFeed2(*2)</b>	
	<b>BackFeed3(*3)</b>	
	<b>BathNum(*7)</b>	バッチカット枚数の指定を行います
	<b>GetInfo(*7)</b>	<b>LSP5300(5310)/LP5320/SR/SRS</b> のプリンタ情報を取得します。
	<b>LSP5300Info(*5)</b>	<b>LSP5300</b> のプリンタ情報を取得します。
	<b>LSP5300FeedReset(*5)</b>	<b>LSP5300</b> のプリンタ情報を取得します。
<b>rtwError</b>	エラーコードを参照できます。	

表 1

各メソッドの意味を下記に記します。

コレクション	メソッド	意 味
rtwForm	SetFunctionValue(*6)	DURA プリンタの機能設定値を変更します。
	GetFunctionValue(*6)	DURA プリンタの機能設定値 (DURA Rhythm で作成されたフォーマットファイル内で設定している機能設定値) を取得します。
	SetTextOnlyDriver(*12)	CommPort が 19 に指定されている時にドライバ名を指定します。
rtwParts	GetPartsInfo(*8)	変数が設定されているパーツのパーツ情報を取得
	GetBarType(*8)	変数名よりバーコードの種類を取得
	ChkPrinterStatus(*9)	プリンタの状態を取得
	Get2DType(*10)	変数名より 2 次元コードの種類を取得
rtwPrint	Position(*8)	印字開始位置を設定する
	OnlyVariableSend(*8)	ラベラーモード時に、印刷コマンドを可変データのみ送るか、すべて送るかのモード選択

表 2

「表 1 / 表 2 の補足」

- (\*1) DURA Rhythm Ver.3.35 以降で追加されたプロパティです。
- (\*2) DURA Rhythm Ver.4.03 以降で追加されたプロパティです。
- (\*3) DURA Rhythm Ver.4.30 以降で追加されたプロパティです。
- (\*4) DURA Rhythm Ver.4.53 以降で追加されたプロパティです。
- (\*5) DURA Rhythm Ver.4.58 以降で追加されたプロパティです。
- (\*6) DURA Rhythm Ver.4.6 以降で追加されたものです。
- (\*7) DURA Rhythm Ver.5.0 以降で追加されたものです。
- (\*8) DURA Rhythm Ver.5.1 以降で追加されたものです。
- (\*9) DURA Rhythm Ver.5.1 C 以降で追加されたものです。
- (\*10) DURA Rhythm Ver.5.5B 以降で追加されたものです。
- (\*11) DURA Rhythm Ver.5.5B6 以降で追加されたものです。
- (\*12) DURA Rhythm Ver.5.7F 以降で追加されたものです。

VBA で各プロパティ/メソッドを操作するには、下記の例の様に「オブジェクト」「コレクション」「プロパティ/メソッド」をピリオドで区切って指定します。

例： `object.rtwForm.File = [A:¥Rtmwin¥Samples¥TEST.RTW]`

#### ( 1 ) File プロパティ

書式： `object.rtwForm.File` = ファイル名

設定値： ファイル名は、DURA Rhythm で作成されたフォーマットファイル名をディレクトリ名+ファイル名の文字列で指定します。

変数型： 設定値、取得値：String

解説： 最初に、必ずこのプロパティを設定する必要があります。以降、ここで指定したファイルに登録されているラベルレイアウトに基づき、印刷などの処理を行います。

戻り値： 正常に処理が終了すれば、プロパティ `rtwError` の値が0になります。エラーが発生した場合、プロパティ `rtwError` が0以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

#### ( 2 ) Variable プロパティ

書式： `object.rtwParts.Variable` = 変数名

設定値： 変数名は、DURA Rhythm でフォーマット作成時、パーツの入力方法を「変数名で入力」にした時の変数名を文字列で指定します。

変数型： 設定値、取得値：String

解説： このプロパティで変数名を設定すると、そのパーツの印字データをプロパティ `PrintData` を使って設定/参照することができます。尚、変数名の指定は、大文字/小文字を区別します。

戻り値： 正常に処理が終了すれば、プロパティ `rtwError` の値が0になります。エラーが発生した場合、プロパティ `rtwError` が0以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

#### ( 3 ) PrintData プロパティ

書式： 設定時：`object.rtwParts.PrintData` = 印字データ

参照時：文字変数 = `object.rtwParts.PrintData`

設定値： 設定時は、印字データを文字列で指定します。参照時は、文字変数にプロパティを代入します。

変数型： 設定値、取得値：String

解説： 現在選択されている変数名に対する印字データを設定/参照します。

戻り値： 正常に処理が終了すれば、プロパティ `rtwError` の値が0になります。エラーが発生した場合、プロパティ `rtwError` が0以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

#### ( 4 ) Start プロパティ

- 書式 : **object.rtwPrint.Start** = 印刷枚数  
設定値 : 印刷枚数に、ラベル発行枚数を数値で指定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **Long**  
解説 : このプロパティを設定すると、指定された枚数ラベル発行を行います。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。  
尚、印刷エラーが発生した場合、**DURA Rhythm** でエラーメッセージを表示  
します (但し、**Message** プロパティに **False** を設定している場合は表示  
されません)。

#### ( 5 ) Start2 プロパティ

- 書式 : **object.rtwPrint.Start2** = 印刷枚数  
設定値 : 印刷枚数に、ラベル発行枚数を数値で指定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **Long**  
解説 : 基本的には、**Start** プロパティと同じ処理を行います。 **Start2** プロパティ  
使用の場合は、バックグラウンド処理にて印刷を行います。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
印字処理中の時は、プロパティ **rtwError** の値が - 1 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 および - 1 0 以外の値に  
なります。詳細は、エラーコード表を参照してください。  
尚、印刷エラーが発生した場合、**DURA Rhythm** でエラーメッセージを表示  
します (但し、**Message** プロパティに **False** を設定している場合は表示  
されません)。

#### ( 6 ) Message プロパティ ( Ver.3.35 以降 )

- 書式 : **object.rtwForm.Message** = メッセージフラグ  
設定値 : メッセージフラグは、 **DURA Rhythm** でメッセージダイアログを表示するか  
否かを指定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**  
解説 : **DURA Rhythm** でメッセージダイアログを表示しない場合は **False** を、表示  
する場合は **True** ( **False** 以外の値 ) を設定します。このプロパティを設定  
しない時は、**Ver4.02** 以降はメッセージダイアログを表示しませんが、  
それ以前のバージョンでは表示されます。  
戻り値 : 常に正常となります ( プロパティ **rtwError** の値は不変です )。

( 7 ) **Flip** プロパティ ( Ver.4.53 以降 )

書 式 : **object.rtwForm.Flip** = 回転角度

設定値 : 回転角度は、印刷するラベルイメージの回転角度を指定します。

変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**

解 説 : 0 または、180 の値を設定可能です。通常印字する場合は 0 を指定し、180 を指定した場合は、印字イメージが上下反転します。  
このプロパティを設定しない時は、**DURA Rhythm** で登録されている回転角度で印字します。

戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 8 ) **CommPort** プロパティ ( Ver.4.53 以降 )

書 式 : **object.rtwForm.CommPort** = 出力ポート番号

設定値 : 出力ポート番号は、プリンタと接続している通信ポートの番号を指定します。  
このプロパティを設定しない時は、**DURA Rhythm** で登録されている出力ポートで印字します。

変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**

解 説 : 出力ポート番号には、以下の値を指定できます。

戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
ポートが使用中の場合は、**rtwError** の値が -3 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

出力ポート番号	通信デバイス名		出力ポート番号	通信デバイス名
0	COM1		10	COM11
1	COM2		11	COM12
2	COM3		12	COM13
3	COM4		13	COM14
4	COM5		14	COM15
5	COM6		15	COM16
6	COM7		16	LPT1
7	COM8		17	LPT2
8	COM9		18	TCP/IP
9	COM10		19	Text Only Driver

( 9 ) **Comment** プロパティ ( Ver.3.35 以降 )

- 書 式 : **object.rtwParts.Comment** = コメント文字列
- 設定値 : コメント文字列は、**DURA Rhythm** でフォーマット作成時、パーツのコメント欄に入力した文字列を指定します。
- 変数型 : 設定値、取得値 : **String**
- 解 説 : このプロパティでコメント文字列を設定すると、そのパーツの印字データをプロパティ **PrintData** を使って設定 / 参照することができます。このプロパティは、基本的に **Variable** プロパティと同等の機能ですが、入力方法が「変数名で入力」以外のパーツであっても使用できます。コメント文字列の指定は、大文字 / 小文字 / 全角 / 半角を区別します。
- 戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 0 ) **LogoFile** プロパティ ( Ver.3.35 以降 )

- 書 式 : **object.rtwParts. LogoFile** = ログファイル名
- 設定値 : ログファイル名は、**DURA Rhythm** でフォーマット作成時、ロゴパーツ登録時の「ビットマップファイル名」を指定します。
- 変数型 : 設定値、取得値 : **String**
- 解 説 : このプロパティでログファイル名を設定すると、そのロゴパーツのビットマップファイル名を変更できます。**Comment** プロパティによって、選択されているパーツがロゴパーツで、使用するログファイルが「ディスク内」の時使用できます。このプロパティを設定しない時は、パーツで登録されているビットマップファイル名で印字します。
- 戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 1 ) **LogoName** プロパティ ( Ver.3.35 以降 )

- 書 式 : **object.rtwParts. LogoName** = ログ名
- 設定値 : ログ名は、**DURA Rhythm** でフォーマット作成時、ロゴパーツ登録時の「ログ名」を指定します。
- 変数型 : 設定値、取得値 : **String**
- 解 説 : このプロパティでログ名を設定すると、そのロゴパーツのログ名を変更できます。**Comment** プロパティによって、選択されているパーツがロゴパーツで、使用するログファイルが「メモリカード内」の時使用できます。このプロパティを設定しない時は、パーツで登録されているログ名で印字します。
- 戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 2 ) **Visible** プロパティ ( Ver.3.35 以降 )

- 書式 : **object.rtwParts.Visible** = 印字フラグ  
設定値 : 印字フラグは、選択されているパーツを印字するか否かを指定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**  
解説 : **Variable** プロパティまたは **Comment** プロパティによって、選択されているパーツを印字しない場合は **False** を、印字する場合は **True** を設定します。このプロパティを設定しない時は、該当パーツを印字します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 3 ) **CtrlSave** プロパティ ( Ver.4.53 以降 )

- 書式 : **object.rtwParts.CtrlSave** = 連番保持フラグ  
設定値 : 連番保持フラグは、選択されているパーツの連番情報を保持するか否かを指定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**  
解説 : **Variable** プロパティまたは **Comment** プロパティによって、選択されているパーツの連番情報を保持しない場合は **False** を、保持 ( 印字を行う度にフォーマットファイル内の印字データ内容を更新 ) する場合は **True** を設定します。このプロパティを設定しない時は、該当パーツの連番情報を保持します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 4 ) **TTFontSize** プロパティ ( Ver.4.58 以降 )

- 書式 : **object.rtwParts.TTFontSize** = フォントサイズ  
設定値 : **TrueType** フォントのフォントサイズをポイント単位で指定します。  
変数型 : 設定値 : **Double** 取得値 : なし  
解説 : **Comment** プロパティによって、選択されている **TrueType** パーツのフォントサイズを変更する場合に使用します。 **Comment** プロパティによって、選択されているパーツが **TrueType** パーツで、使用するファイルが「ディスク内」の時使用できます。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。



( 15 ) **TTStringSpc** プロパティ ( Ver.4.58 以降 )

- 書式 : *object.rtwParts.TTStringSpc* = 文字間スペース  
設定値 : **TrueType** フォントの文字間スペースをドット単位で指定します。  
変数型 : 設定値 : **Integer** 取得値 : なし  
解説 : **Comment** プロパティによって、選択されている **TrueType** パーツの文字間スペースを変更する場合に使用します。 **Comment** プロパティによって、選択されているパーツが **TrueType** パーツで、使用するファイルが「ディスク内」の時使用できます。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 16 ) **TTStringData** プロパティ ( Ver.4.58 以降 )

- 書式 : *object.rtwParts.TTStringData* = 印字データ  
設定値 : **TrueType** フォントの印字データを指定します。  
変数型 : 設定値 : **String** 取得値 : なし  
解説 : **Comment** プロパティによって、選択されている **TrueType** パーツの印字データを変更する場合に使用します。 **Comment** プロパティによって、選択されているパーツが **TrueType** パーツで、使用するファイルが「ディスク内」の時使用できます。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 17 ) **BackFeed1/ BackFeed2** プロパティ ( Ver.4.03 以降 )

- 書式 : *object.rtwPrint.BackFeed1* = **True**  
*object.rtwPrint.BackFeed2* = **True**  
設定値 : **True** を指定します。  
変数型 : 設定値 : **Integer** 取得値 : なし  
解説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、マウンタモードで登録されている場合、バックフィードを行います。  
**BackFeed1** を指定した場合、バックフィードコマンドをプリンタに送信してバックフィードが完了するまで待ちます。  
**BackFeed2** を指定した場合は、バックフィードコマンドをプリンタに送信して即時に完了します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 8 ) **BackFeed3** プロパティ ( Ver.4.30 以降 )

- 書 式 : **object.rtwPrint.BackFeed3 = True**
- 設定値 : **True** を指定します。
- 変数型 : 設定値 : **Integer** 取得値 : なし
- 解 説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、マウンタモードで登録されている場合、バックフィードを行います。  
基本的には、**BackFeed1** プロパティと同じ処理を行います。が、**BackFeed3** プロパティ使用の場合は、バックグラウンド処理にてバックフィードを行います。
- 戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
バックフィード処理中の時は、プロパティ **rtwError** の値が - 1 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 および - 1 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 1 9 ) **BathNum** プロパティ ( Ver.5.0 以降 )

- 書 式 : **object.rtwPrint.BathNum =** バットカット枚数
- 設定値 : バットカット枚数を数値で指定します。
- 変数型 : 設定値 : **Long** 取得値 : なし
- 解 説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、バッチカットモードで登録されている場合のみ有効です。  
このプロパティは、印刷開始 (**Start** プロパティ) の直前に指定するようにしてください。
- 戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 0 ) **GetInfo** プロパティ ( Ver.5.0 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint.GetInfo** = 情報ファイル名

設定値 : **LSP5300(5310)/LP5320/SR/SRS** のプリンタ情報を取得するファイル名をフルパスで指定します。

変数型 : 設定値 : **String** 取得値 : なし

解 説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、**LSP5300(5310)/LP5320/SR/SRS** で登録されている場合、プリンタ情報を取得できます。プリンタ情報は、本プロパティで指定された情報ファイル名で、テキスト形式にて保存されます。情報ファイルのフォーマットは以下の通りです。

・ **LSP5300(5310)/ LP5320** の場合

DIP SW 1 ~ 10 の設定値 ( 10 行 )

機能設定 1 ~ 16 の設定値 ( 16 行 )

ROM バージョン

ヘッド抵抗値 ( 平均値 )

ヘッド抵抗値 ( 最大値 )

ヘッド抵抗値 ( 最少値 )

オドメータ値

フィード距離

カット回数

・ **SR/SRS** の場合

DIP SW 1 ~ 10 の設定値 ( 8 行 )

機能設定 1 ~ 16 の設定値 ( 16 行 )

ROM バージョン

ヘッド抵抗値 ( 平均値 )

ヘッド抵抗値 ( 最大値 )

ヘッド抵抗値 ( 最少値 )

オドメータ値

フィード距離

カット回数

戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 1 ) **LSP5300Info** プロパティ ( Ver.4.58 以降 )

\* Ver.5.0 以降では、**GetInfo** プロパティが追加されています。現在、機能的には同じ物ですので、なるべく **GetInfo** プロパティをご使用ください。

- 書式 : **object.rtwPrint.LSP5300Info** = 情報ファイル名  
設定値 : **LSP5300** のプリンタ情報を取得するファイル名をフルパスで指定します。  
変数型 : 設定値 : **String** 取得値 : なし  
解説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、**LSP5300** で登録されている場合、プリンタ情報を取得できます。  
プリンタ情報は、本プロパティで指定された情報ファイル名で、テキスト形式にて保存されます。情報ファイルのフォーマットは以下の通りです。  
DIP SW 1 ~ 10 の設定値 ( 10 行 )  
機能設定 1 ~ 16 の設定値 ( 16 行 )  
ROM バージョン  
ヘッド抵抗値 ( 平均値 )  
ヘッド抵抗値 ( 最大値 )  
ヘッド抵抗値 ( 最少値 )  
オドメータ値  
フィード距離  
カット回数  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 2 ) **LSP5300FeedReset** プロパティ ( Ver.4.58 以降 )

- 書式 : **object.rtwPrint.FeedReset** = **True**  
設定値 : **True** を指定します。  
変数型 : 設定値 : **Integer** 取得値 : なし  
解説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイルが、**LSP5300** で登録されている場合、**LSP5300** の内部に記憶されているフィード距離をリセットします。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 3 ) **OnlyVariableSend** プロパティ ( Ver.5.1 以降 )

- 書式 : **object.rtwPrint.OnlyVariableSend** (iSendFlg As Integer)  
設定値 : 0=印字コマンドをすべて送る、1=可変パーツのみ送る  
変数型 : 設定値、取得値 : **Integer**  
解説 : ラベラーモード時に、印刷コマンドを可変データのみ送るか、すべて送るかを設定します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 4 ) **NumberingReset** プロパティ ( Ver.5.5B 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint. NumberingReset** (iNumNo As Integer) = リセット値  
設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、リセット値を設定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **string**  
解 説 : 連番のリセット値を設定します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 5 ) **NumberingMax** プロパティ ( Ver.5.5B 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint. NumberingMax** (iNumNo As Integer) = 最大値  
設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、最大値を設定します。  
変数型 : 設定値、取得値 : **string**  
解 説 : 連番の最大値を設定します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 6 ) **Num\_StartFig** プロパティ ( Ver.5.5B6 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint. Num\_StartFig** (iNumNo As Integer) = 開始位置  
設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、開始位置を設定します。  
( リンク連番未使用時は **iNumNo** は省略してください。 )  
変数型 : 設定値、取得値 : **integer**  
解 説 : 連番の開始位置を設定します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 2 7 ) **Num\_Length** プロパティ ( Ver.5.5B6 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint Num\_Length** (iNumNo As Integer) = 文字数  
設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、文字数を設定します。  
( リンク連番未使用時は **iNumNo** は省略してください。 )  
変数型 : 設定値、取得値 : **integer**  
解 説 : 連番する文字数を設定します。  
戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 28 ) **Num\_Idential** プロパティ ( Ver.5.5B6 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint. Num\_Idential** (iNumNo As Integer) = 何枚毎かの数値

設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、何枚毎かの数値を設定します。

( リンク連番未使用時は **iNumNo** は省略してください。 )

変数型 : 設定値、取得値 : **integer**

解 説 : 何枚毎に連番するかを設定します。

戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 29 ) **Num\_Addval** プロパティ ( Ver.5.5B6 以降 )

書 式 : **object.rtwPrint. Num\_Addval** (iNumNo As Integer) = 変化量

設定値 : **iNumNo** に連番番号を指定して、変化量を設定します。

( リンク連番未使用時は **iNumNo** は省略してください。 )

変数型 : 設定値、取得値 : **integer**

解 説 : 連番の変化量を設定します。

戻り値 : 正常に処理が終了すれば、プロパティ **rtwError** の値が 0 になります。  
エラーが発生した場合、プロパティ **rtwError** が 0 以外の値になります。  
詳細は、エラーコード表を参照してください。

( 3 0 ) rtwError プロパティ

書 式 : 数値変数 = *object*. rtwError

変数型 : 設定値 : なし 取得値 : **Integer**

解 説 : 各プロパティの設定後、エラー情報を読み出します(下表参照)。

対象プロパティ	コード	意 味
<b>File</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	フォーマットファイルをオープン出来ない
	<b>-2</b>	ファイルの読み込みエラー
	<b>-3</b>	<b>DURA Rhythm</b> のファイルでない
	<b>-4</b>	このバージョンのファイルは読み込みできない
	<b>-5</b>	ディスクの容量不足
<b>Comment(*1)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	指定されたコメントのパーツが見つからない
<b>Variable</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	指定された変数名のパーツが見つからない
<b>PrintData</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	印字データが不正
<b>LogoFile(*1)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	対象パーツはロゴパーツでない
	<b>-4</b>	使用するロゴの指定がディスク内でない
	<b>-5</b>	ビットマップファイルが見つからない
	<b>-6</b>	ビットマップファイルの読み込みエラー
<b>LogoName(*1)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	対象パーツはロゴパーツでない
	<b>-4</b>	使用するロゴの指定がメモ리카ード内でない
<b>Visible(*1)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない

対象プロパティ	コード	意味
<b>Start</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	枚数指定が不正
	<b>-3</b>	送信時にタイムアウト発生
	<b>-4</b>	プリンタステータス異常
	<b>-5</b>	プリンタ受信バッファにデータあり (ラベラーモード時)
	<b>-6</b>	印字中 (手貼りモード時)
	<b>-7</b>	剥離センサラベルあり (手貼りモード時)
	<b>-8</b>	処理中 (手貼りモード時)
	<b>-14</b>	印字データ送信後のステータス異常 (手貼りモード時)
<b>Start2</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	枚数指定が不正
	<b>-3</b>	送信時にタイムアウト発生
	<b>-4</b>	プリンタステータス異常
	<b>-5</b>	プリンタ受信バッファにデータあり (ラベラーモード時)
	<b>-6</b>	印字中 (手貼りモード時)
	<b>-7</b>	剥離センサラベルあり (手貼りモード時)
	<b>-8</b>	処理中 (手貼りモード時)
	<b>-10</b>	印字処理中
	<b>-14</b>	印字データ送信後のステータス異常 (手貼りモード時)
	<b>-15</b>	Text Only Driver がインストールされていない
<b>BackFeed1/ BackFeed2(*2)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	指定ファイルがマウンターモードに設定されていない
	<b>-3</b>	送信時にタイムアウト発生
<b>BackFeed3(*3)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	指定ファイルがマウンターモードに設定されていない
	<b>-3</b>	送信時にタイムアウト発生
	<b>-4</b>	プリンタステータス異常
	<b>-10</b>	バックフィード処理中
<b>Flip(*4)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
<b>CommPort(*4)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	指定したポートは使用できない
	<b>-3</b>	指定されたポートを使用中
<b>rSave(*4)</b>	<b>0</b>	正常終了
	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない



	<b>-3</b>	このパーツは連番情報を持っていない
--	-----------	-------------------

対象プロパティ	コード	意味
TTFontSize(*5)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	Comment プロパティが設定されていない
	-3	対象パーツは TrueType パーツでない
	-4	使用するファイルの指定がディスク内でない
TTStringSpc(*5)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	Comment プロパティが設定されていない
	-3	対象パーツは TrueType パーツでない
	-4	使用するファイルの指定がディスク内でない
TTStringData(*5)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	Comment プロパティが設定されていない
	-3	対象パーツは TrueType パーツでない
	-4	使用するファイルの指定がディスク内でない
BathNum(*6)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	枚数指定が不正
GetInfo(*6)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	プリンタ情報を受信できなかった
LSP5300Info(*5)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	プリンタ情報を受信できなかった
LSP5300FeedReset(*6)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
OnlyVariableSend(*7)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	ラベラーモードではない
	-3	フラグが不正
NumberingReset(*10)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	Variable または Comment プロパティが設定されていない
	-3	連番パーツではない
	-4	最大値、最小値を使用する設定ではない
	-5	リンク連番番号が不正(1~3しか指定できない)
	-6	設定された値が不正
NumberingMax(*10)	0	正常終了
	-1	File プロパティが設定されていない
	-2	Variable または Comment プロパティが設定されていない
	-3	連番パーツではない
	-4	最大値、最小値を使用する設定ではない
	-5	リンク連番番号が不正(1~3しか指定できない)
	-6	設定された値が不正

<b>Num_StartFig</b> (*11)	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	連番パーツではない
	<b>-4</b>	連番を行う値が不正
<b>Num_Length</b> (*11)	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	連番パーツではない
	<b>-4</b>	連番を行う値が不正
<b>Num_Idential</b> (*11)	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	連番パーツではない
	<b>-4</b>	連番を行う値が不正
<b>Num_Addval</b> (*11)	<b>-1</b>	<b>File</b> プロパティが設定されていない
	<b>-2</b>	<b>Variable</b> または <b>Comment</b> プロパティが設定されていない
	<b>-3</b>	連番パーツではない
	<b>-4</b>	連番を行う値が不正

- (\*1) DURA Rhythm Ver.3.35 以降で追加されたプロパティです。
- (\*2) DURA Rhythm Ver.4.03 以降で追加されたプロパティです。
- (\*3) DURA Rhythm Ver.4.30 以降で追加されたプロパティです。
- (\*4) DURA Rhythm Ver.4.53 以降で追加されたプロパティです。
- (\*5) DURA Rhythm Ver.4.58 以降で追加されたプロパティです。
- (\*6) DURA Rhythm Ver.5.0 以降で追加されたプロパティです。
- (\*7) DURA Rhythm Ver.5.1 以降で追加されたプロパティです。
- (\*10) DURA Rhythm Ver.5.5B 以降で追加されたプロパティです。
- (\*11) DURA Rhythm Ver.5.5B6 以降で追加されたプロパティです。

( 3 1 ) **SetFunctionValue** メソッド ( Ver.4.6 以降 )

書 式 : **iRet** = *object*.rtwForm.SetFunctionValue(機能番号, 機能設定値, \_  
リセットフラグ)

設定値 : **DURA** プリンタの機能設定値を変更します。

変数型 : 引数 : **Integer** , **Integer** , **Integer** 戻り値 : **Integer**

解 説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイル内の機能設定値を変更すると同時に、**DURA** プリンタに機能設定値を送信します ( すべての機能設定データを送信します ) 。

機能番号および機能設定値の意味合いについては、**DURA** プリンタの機種ごとに異なりますので、それぞれのリファレンスマニュアル / システム導入編を参照してください。

パラメータに設定する機能番号および機能設定値は、実際にプリンタに定める値とは異なります。パラメータに設定する機能番号および機能設定値の値については、サンプルプログラムのモジュール ( **basDURA** ) を参照してください。

リセットフラグは、通常 0 をセットしますが、プリンタモードを変更する場合のみ 1 または 2 をセットしてください。**LSP5300** でラベラーモードから他のモードに変更する場合は 2 を、その他の場合は 1 をセットするようにしてください。

戻り値 :     0 = 正常  
          - 1 = フォームファイルがロードされていない  
          - 2 = 機能番号が範囲外  
          - 3 = 機能設定データが範囲外  
          - 4 = このプリンタ機種では設定できない  
          - 5 = 機能設定送信エラー

### ( 3 2 ) GetFunctionValue メソッド ( Ver.4.6 以降 )

書 式 : **iRet** = *object*.rtwForm.GetFunctionValue(機能番号, 機能設定値保存)

設定値 : **DURA** プリンタの機能設定値(フォーマットファイル内の値)を取得します。

変数型 : 引数 : **Integer**, **Integer** 戻り値 : **Integer**

解 説 : **File** プロパティで選択されたフォーマットファイル内の機能設定値を取得  
します (**DURA** プリンタに設定されている値は取得できません)。

機能番号および機能設定値の意味合いについては、**DURA** プリンタの機種  
ごとに違いますので、それぞれのリファレンスマニュアル/システム導入編  
を参照してください。

パラメータに設定する機能番号および取得する機能設定値は、実際にプリン  
タに設定されている値とは異なります。

パラメータに設定する機能番号および取得する機能設定値の値については、  
サンプルプログラムのモジュール (**basDURA**) を参照してください。

戻り値 : 0 = 正常  
- 1 = フォームファイルがロードされていない  
- 2 = 機能番号が範囲外

### ( 3 3 ) GetPartsInfo メソッド ( Ver.5.1 以降 )

書 式 : *object*.rtwParts. GetPartsInfo ( コレクションオブジェクト )

設定値 : コレクションオブジェクトを指定します。正常に処理が終了すれば  
ここにパーツ情報が返されます。

変数型 : 引数 : **Collection** 戻り値 : **Integer**

解 説 : フォーマットに登録されていて、変数名が設定されているすべてのパーツの  
情報を取得します。取得できる情報は、変数名パーツ種別コメントの 3 種類  
です。取得した情報のうちのパーツ種別は数字の値が返ってきます。

それぞれの数字の意味は以下の様になっています。

- 1 = 文字パーツ
- 2 = バーコードパーツ
- 3 = 2次元コードパーツ
- 4 = イメージパーツ

戻り値 : 0 = 正常  
- 1 = フォームファイルがロードされていない  
- 2 = 変数が設定されているパーツが存在しない

( 3 4 ) **GetBarType** メソッド ( Ver.5.1 以降 )

書 式 : **object.rtwParts.GetBarType** ( 変数名 ,バーコードのタイプ )

設定値 : バーコードパーツの変数名を指定します。正常に処理が終了すれば「バーコードのタイプ」にパーツ情報が返されます。

変数型 : 引数 : **String** , **Integer** 戻り値 : **Integer**

解 説 : フォーマットに登録されていて、変数名が設定されているバーコードパーツの種類を取得します。取得した数字の意味は以下の様になっています。

- 1 = Code 39
- 2 = ITF(I2of5)
- 3 = UPC-A
- 4 = UPC-E
- 5 = EAN(JAN)-13
- 6 = EAN(JAN)-8
- 7 = Codabar(NW7)
- 8 = Code 93
- 9 = Code 128(SubsetA)
- 10 = Code 128(SubsetB)
- 11 = Code 128(SubsetC)
- 12 = Casocode 128
- 13 = Code 128(SubsetA のみ)
- 14 = Code 128(SubsetB のみ)
- 15 = Code 128(SubsetC のみ)
- 16 = カスタマバーコード
- 17 = UPC-A ヒューマンリーダブルなし
- 18 = UPC-E ヒューマンリーダブルなし
- 19 = EAN(JAN)-13 ヒューマンリーダブルなし
- 20 = EAN(JAN)-8 ヒューマンリーダブルなし
- 21 = EAN(JAN)-13 チェックデジット計算なし
- 22 = EAN(JAN)-8 チェックデジット計算なし
- 23 = EAN-128(SubsetA)
- 24 = EAN-128(SubsetB)
- 25 = EAN-128(SubsetC)
- 26 = EAN-128(SubsetA のみ)
- 27 = EAN-128(SubsetB のみ)
- 28 = EAN-128(SubsetC のみ)
- 29 = Code 128(AUTO)
- 30 = EAN-128(AUTO)

戻り値 : 0 = 正常  
- 1 = フォームファイルがロードされていない  
- 2 = 変数が見つからない、又は指定されたパーツがバーコードではない

( 3 5 ) **Position** メソッド ( Ver.5.1 以降 )

- 書 式 : *object.rtwPrint.Position* ( 印字開始位置 X , 印字開始位置 Y )  
設定値 : 印字開始位置 X、表示座標 Y に数値を Pixel 単位で指定します。  
設定できる範囲は X が 20 ~ 20、Y が 7 ~ 7 になります。  
変数型 : 引数 : **Long , Long** 戻り値 : **Integer**  
解 説 : このメソッドを実行すると、印字開始位置を設定することができます。  
印字開始位置 Y を設定する場合は、DURARhythm のフォーマットで  
機能設定の印刷時、機能設定を送信「する」を選択してください。  
戻り値 : 0 = 正常  
- 1 = 値が不正

( 3 6 ) **ChkPrinterStatus** メソッド ( Ver.5.1C 以降 )

- 書 式 : *object.rtwForm.ChkPrinterStatus* ()  
設定値 : なし  
変数型 : 引数 : **なし** 戻り値 : **Integer**  
解 説 : このメソッドを実行すると、プリンタのステータスを  
チェックすることができます。  
戻り値 : 0 = 待ち受け状態  
- 1 = プリンタ作業中  
- 2 = プリンタ反応なし

( 3 7 ) **Get2DType** メソッド ( Ver.5.5B 以降 )

- 書 式 : *object.rtwParts.Get2DType* ( 変数名 , 2次元コードのタイプ )  
設定値 : 2次元コードパーツの変数名を指定します。正常に処理が終了すれば  
「2次元コードのタイプ」にパーツ情報が返されます。  
変数型 : 引数 : **String , Integer** 戻り値 : **Integer**  
解 説 : フォーマットに登録されていて、変数名が設定されている2次元コード  
パーツの種類を取得します。取得した数字の意味は以下の様になっています。  
1 = QRCode  
3 = PDF417  
4 = DataMatrix  
戻り値 : 0 = 正常  
- 1 = フォームファイルがロードされていない  
- 2 = 変数が見つからない、又は指定されたパーツがバーコードではない

( 3 8 ) **SetTextOnlyDriver** メソッド ( Ver.5.7F 以降 )

書 式 : *object.rtwForm*. **SetTextOnlyDriver** ( プリント名 )

設定値 : **TextOnlyDriver** の名称を設定します。

変数型 : 設定値 : **String** 取得値 : なし

解 説 : 印刷する **Port** が **CommPort19(TextOnlyDriver)** に指定されている時に  
ドライバ名を指定します。ネットワークプリンタを指定する場合は、  
プリンタへのパスも合わせて指定してください。

例 : " ¥¥mainPC¥Generic / Text Only(COM1) "

戻り値 : 0 = 正常

- 1 = ポートが **Text Only Driver(19)** ではない

- 2 = 指定のプリンタ名は **Text Only Driver** ではない





```
objRhythm.rtwParts.Variable = "CODE39"  
objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"  
変数名 OCR-B を選択し、印字データを"1234567890"と定義します。  
objRhythm.rtwParts.Variable = "OCR-B"  
objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"
```

( 5 ) 発行枚数の指定を行い、印刷を開始します。

```
objRhythm.rtwPrint.Start = 5
```

( 6 ) プログラム終了時 ( Form\_Unload イベントなどで)、オブジェクトの開放を行います。

```
Set objRhythm = Nothing
```

詳細は、添付のサンプルプログラムを参照してください。

サンプルプログラムは、インストールディレクトリの下での SAMPLES¥VB5 の中に格納されています。

## 2 - 4 - 2 Access の場合

( 1 ) オブジェクトの生成に先立ち、オブジェクト変数を宣言セクションに追加します。

```
Dim objRhythm As Object
```

( 2 ) オブジェクトの生成を行います。通常は、Form\_Load イベントなどプログラム起動時の処理に下記のコーディングを追加します。 CreateObject 関数に指定するパラメータ ( RtmSvInp.DURARhythm ) は、DURA Rhythm のバージョンによって異なります ( 2 - 1 機能概要の “アプリケーションの名前” の項参照)。

```
Set objRhythm = CreateObject("RtmSvInp.DURARhythm")  
アプリケーションの名前
```

( 3 ) フォーマットファイルの選択を行います。

```
objRhythm.rtwForm.File =  
[C:¥Program Files¥Rtmwin32¥Samples¥SR_TEST.RTW]
```

( 4 ) 印字データの設定を行います。

変数名 **CODE39** を選択し、印字データを”1234567890”と定義します。

```
objRhythm.rtwParts.Variable = "CODE39"
```

```
objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"
```

変数名 **OCR-B** を選択し、印字データを”1234567890”と定義します。

```
objRhythm.rtwParts.Variable = "OCR-B"
```

```
objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"
```

( 5 ) 発行枚数の指定を行い、印刷を開始します。

```
objRhythm.rtwPrint.Start = 5
```

( 6 ) プログラム終了時 (**Form\_Unload** イベントなどで)、オブジェクトの開放を行います。

```
Set objRhythm = Nothing
```

詳細は、添付のサンプルプログラムを参照してください。

サンプルプログラムは、インストールディレクトリの下での **SAMPLES¥ACCESS97¥** の中に格納されています。

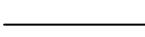
### 2 - 4 - 3 Excel の場合

( 1 ) オブジェクトの生成に先立ち、オブジェクト変数を宣言セクションに追加します。

```
Global objRhythm As Object
```

( 2 ) オブジェクトの生成を行います。通常は、**Auto\_Open** マクロなどプログラム起動時の処理に下記のコーディングを追加します。 **CreateObject** 関数に指定するパラメータ (**RtmSvInp.DURARhythm**) は、**DURA Rhythm** のバージョンによって異なります ( 2 - 1 機能概要の “アプリケーションの名前” の項参照)。

```
Set objRhythm = CreateObject("RtmSvInp.DURARhythm")
```

アプリケーションの名前 

( 3 ) フォーマットファイルの選択を行います。

**objRhythm.rtwForm.File =**

**[C:¥Program Files¥Rtmwin32¥Samples¥SR\_TEST.RTW]**

( 4 ) 印字データの設定を行います。

変数名 **CODE39** を選択し、印字データを”1234567890”と定義します。

**objRhythm.rtwParts.Variable = "CODE39"**

**objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"**

変数名 **OCR-B** を選択し、印字データを”1234567890”と定義します。

**objRhythm.rtwParts.Variable = "OCR-B"**

**objRhythm.rtwParts.PrintData = "1234567890"**

( 5 ) 発行枚数の指定を行い、印刷を開始します。

**objRhythm.rtwPrint.Start = 5**

( 6 ) プログラム終了時、オブジェクトの開放を行います。

**Set objRhythm = Nothing**

詳細は、添付のサンプルプログラムを参照してください。

サンプルプログラムは、インストールディレクトリの下 **SAMPLES¥EXCEL97¥** の中に格納されています。

本ソフトに添付しているサンプルプログラムは、以下のアプリケーションで作成されています。

- ・ **Internet Explorer**
- ・ **Microsoft Visual Basic V6.0**
- ・ **Microsoft Access 97 & 2000**
- ・ **Microsoft Excel 97 & 2000**

## 2 - 5 補足

- ( 1 ) **DURA Rhythm** で作成されたフォーマットファイルが、連番保持に設定されている場合、印刷後、 **PrintData** プロパティで連番後のデータを参照することができます。また、同時にフォーマットファイルも更新されます。
- ( 2 ) 印刷実行時にエラーが発生した場合、アプリケーション側に詳細エラーコードは返却されませんが、**Message** プロパティを **True** に設定している場合、**DURA Rhythm** で、詳細なエラーメッセージを表示します (**RS-232C** ポート使用時のみ)。表示されるメッセージは、下記の通りです。
  - プリンタが正しく接続されていません。
  - 通信エラーが発生しました。
  - サプライ (ラベル/リボン) のトラブルが発生しています。
  - プリンタのカバーがオープンしています。
  - プリンタのハードウェアにトラブルが発生しています。
  - プリンタがレディ状態ではありません。セントロポートの場合、詳細なエラーメッセージは表示されません。また、プリンタの電源が **OFF** でもデータ送信が終了したものと認識してしまいます。極力、デュラプリンタ **S R** とパソコン間は **RS-232C** ポートで接続して下さい。
- ( 3 ) インターネットエクスプローラでプログラムを作成して実行する場合ブラウザを 2 つ以上同時に起動させると、正常に動作しない場合があります。

### 3 . 追加プロパティについて

#### 3 - 1 Ver3.35 の追加プロパティの使用例

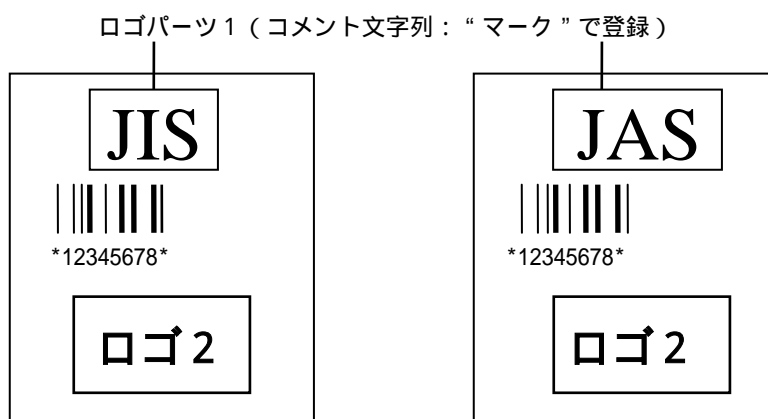


図 3 - 1

例 1 ) 上図で、同じラベルフォーマットで、ロゴパーツ 1 を切り替えて印字したい場合、ロゴパーツ 1 の登録を以下の設定にします。

ロゴパーツ 1 の使用するロゴファイルを「ディスク内」に設定

ロゴパーツ 1 のビットマップファイル名を " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JIS.BMP " に設定

ロゴパーツ 1 のコメント文字列を " マーク " に設定

JIS マークのビットマップファイルは、 " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JIS.BMP " に保存

JAS マークのビットマップファイルは、 " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JAS.BMP " に保存

#### JIS マークを使って印字する場合

コメント " マーク " を選択し、ビットマップファイル名を " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JIS.BMP " と定義します。

```
objRhythm.rtwParts.Comment = "マーク"
```

```
objRhythm.rtwParts.LogoFile = " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JIS.BMP"
```

#### JAS マークを使って印字する場合

コメント " マーク " を選択し、ビットマップファイル名を " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JAS.BMP " と定義します。

```
objRhythm.rtwParts.Comment = "マーク"
```

```
objRhythm.rtwParts.LogoFile = " C:¥Program Files¥RTMWIN32¥JAS.BMP"
```

例2) 図3 - 1で、同じラベルフォーマットで、ロゴ2の印字をする/しないを切り替えて  
印字したい場合、ロゴ2の登録を以下の設定にします。

- ・ロゴ2のコメント文字列を“ロゴ2”に設定

#### ロゴ2を印字する場合

コメント“ロゴ2”を選択し、印字フラグを「印字する」に定義します（または、何も  
定義しなければ印字します）。

```
objRhythm.rtwParts.Comment = "ロゴ2"
```

```
objRhythm.rtwParts.Visible = True
```

#### ロゴ2を印字しない場合

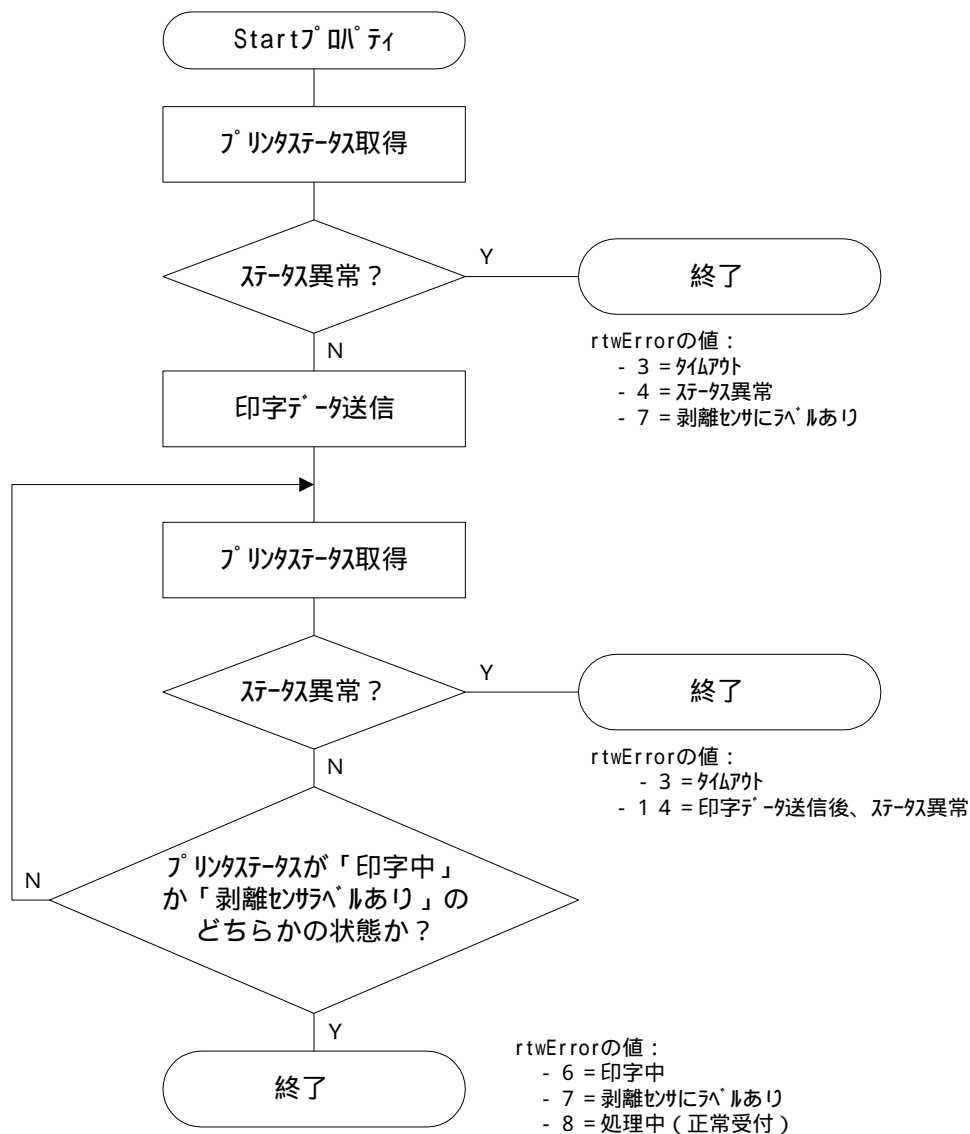
コメント“ロゴ2”を選択し、印字フラグを「印字しない」に定義します。

```
objRhythm.rtwParts.Comment = "ロゴ2"
```

```
objRhythm.rtwParts.Visible = False
```

### 3 - 2 手貼りモードの使用方法について

DURA Rhythm の OLE で印刷実行時 (Start プロパティ使用時)、内部的には以下の様なフローで動作します。



上記で、終了 / 終了 の場合、異常終了となります。

終了 (Start プロパティ呼び出し直後の rtwError プロパティが -8) の場合、正常に印刷された事を示します。その後、rtwError プロパティの値をチェックし、0 になる (剥離センサ位置からラベルが取られる) までアプリケーションで待つようにしてください。



前ページのフローにより、アプリケーション側は以下の様な処理を行う必要があります。

- ( 1 ) **Start** プロパティにより、印刷開始を指示します。
- ( 2 ) **rtwError** プロパティの値 ( 最初にチェックした値が ) が **-7** の場合、前回印刷したラベルが剥離位置にある為、印刷開始のリトライ ( **Start** プロパティの再実行 ) が必要です。  
**-3, -4** の場合はエラー処理を行います。
- ( 3 ) **rtwError** プロパティの値が **-14** の場合は、特に注意が必要です。**-14** の値が返された場合、プリンタには印字データを正常に送信済みで、その後エラーが発生した状況です。  
考えられる状況としては、ハードウェアトラブル、サプライエラー、ジャム等がありますが、この時のオペレータの対処 ( 電源 **OFF** で復旧または、電源を **OFF** にせず復旧のいずれか ) により、ラベルが印刷されたか否かが、変わってきます。  
アプリケーションのエラー表示、運用方法を明確にしておく必要があります。
- ( 4 ) **rtwError** プロパティの値が **-6, -7, -8** の場合は、値が **0** になるか、**-3, -4** になるまでアプリケーション側で待つようにしてください。

## 4 . アプリケーション作成上の注意点

### ( 1 ) オブジェクトの生成について

オブジェクトの生成 ( **CreateObject** 関数 ) は、必ずアプリケーション起動時の一度だけコールするようにしてください ( **DURA Rhythm** の OLE サーバーは、2 重起動をサポートしていません )。また、アプリケーション終了時は、オブジェクト変数に対して “ **Nothing** ” を必ず設定してください。

### ( 2 ) OLE サーバーを参照設定できない場合

アプリケーション作成時、「参照設定できません」等のエラーが表示される場合、再度参照設定を行ってください。

#### Visual Basic の場合

[プロジェクト]メニューの[参照設定]を選択します。

参照オブジェクトの一覧より “ **DURA Rhythm Inprocess Server** ” を探し、チェックボックスをオンにして、「OK」ボタンを押します。

上記オブジェクトの部分に「参照不可」と表示されている場合、一度チェックボックスを未チェックにして「OK」ボタンを押し、再度[参照設定]画面を開いてチェックボックスをオンにしてください。

#### Access97 の場合

[ツール]メニューの[ActiveX コントロール]を選択します。

「登録」ボタンを押します。

ファイル選択のダイアログが表示されますので、3 ページに記載されている「OLE サーバープログラム名」を選択します。

OLE サーバープログラムは、**Windows** ディレクトリの下に **SYSTEM** ディレクトリ ( **Windows NT** の場合は **SYSTEM32** ディレクトリ ) に格納されています。